

各 位

平成 22 年 4 月 14 日
東京都港区六本木六丁目 1 番 20 号
株式会社ワイズテーブルコーポレーション
代表取締役社長 金山 精三郎
(コード番号：2798 東証マザーズ)
問い合わせ先 取締役 吉田 茂
(TEL 03-5412-0065)

特別損益等の計上及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 22 年 2 月期（平成 21 年 3 月 1 日～平成 22 年 2 月 28 日）において、下記のとおり特別損益等を計上するとともに、最近の業績の動向等を踏まえ、平成 21 年 10 月 9 日に公表しました業績予想につきまして、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失等の計上について

(1) 事業撤退損失引当金繰入額

当社は、平成 22 年 4 月 13 日開催の取締役会において、シンガポールでの出店計画の中止を決議し、出店中止により発生が見込まれる損失について、当社の個別決算上、事業撤退損失引当金繰入額 78 百万円を計上いたします。なお、連結決算上も同様に事業撤退損失引当金繰入額 78 百万円を計上いたします。

(2) 子会社株式評価損

中華レストラン事業を展開する㈱CRYSTAL JADE JAPAN及び、上海において複合レストラン「Y's table Dining & The BAR」を展開する和伊授桌餐飲管理(上海) 有限公司の業績不振に起因して、当社の個別決算において子会社株式評価損506百万円を計上いたします。なお、連結決算上は、子会社株式評価損は消去されるため、子会社株式評価損の計上はありません。

(3) 店舗固定資産の減損損失

当社の個別決算において、業績不振店舗に対し減損損失79百万円を計上いたします。連結決算上も同様に減損損失79百万円を計上いたします。

(4) 貸倒引当金繰入額

当社店舗の運営業務委託先に対する債権に対し、貸倒引当金繰入額（営業外費用）51百万円を計上いたします。連結決算上も同様に貸倒引当金繰入額（営業外費用）51百万円を計上いたします。

2. 特別利益の計上について

子会社株式売却益

平成 22 年 2 月 26 日付「子会社株式の一部譲渡に伴う特別利益の計上に関するお知らせ」にてお知らせしましたとおり、当社子会社㈱SALVATORE CUOMO JAPAN 株式の一部売却に伴い、平成 22 年 2 月期（第 4 四半期会計期間）の当社の個別決算において、子会社株式売却益 99 百万円を計上いたし

ます。平成22年2月期（第4四半期連結会計期間）の当社連結決算においては、当該売却取引に関連し、子会社株式売却益79百万円を計上いたします。

また、平成22年3月17日付「特定子会社の異動を伴う株式譲渡および特別利益の計上に関するお知らせ」にてお知らせしましたとおり、当社子会社タカラビルメン(株)の全株式を売却したことにより、平成23年2月期（翌期）に当社個別決算において子会社株式売却益375百万円を計上し、当社連結決算において子会社株式売却益301百万円を計上する見込みであります。平成22年2月期（当期）の損益には影響はありません。

3. 業績予想の修正

<個別>

通期（平成21年3月1日～平成22年2月28日）

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益 (△損失)	経常利益 (△損失)	当期 純利益 (△損失)	1株当たり 当期純利益 (△損失)
前回発表予想(A)	5,680	△273	△200	△227	円 銭 △8,718 32
今回修正予想(B)	5,849	△387	△353	△919	円 銭 △35,171 80
増減額(B-A)	169	△114	△153	△691	—
増減率(%)	3.0	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成21年2月期通期)	6,616	△224	△139	△365	円 銭 △13,987 07

<連結>

通期（平成21年3月1日～平成22年2月28日）

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益 (△損失)	経常利益 (△損失)	当期 純利益 (△損失)	1株当たり 当期純利益 (△損失)
前回発表予想(A)	15,020	46	64	△280	円 銭 △10,730 09
今回修正予想(B)	15,009	△194	△219	△581	円 銭 △22,243 74
増減額(B-A)	△10	△241	△283	△300	—
増減率(%)	△0.1	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成21年2月期通期)	14,087	△49	△76	△433	円 銭 △16,584 60

4. 修正の理由

<個別>

通期（平成21年3月1日～平成22年2月28日）

売上高は5,849百万円（前回予想比3.0%増加）、営業損失は387百万円（前回予想営業損失273百万円）、経常損失353百万円（前回予想経常損失200百万円）、当期純損失は919百万円（前回予想

当期純損失227百万円) となる見込みであります。

売上高については前回予想を上回り、また人件費その他経費の削減は進めてきたものの、客単価の下落に起因した食材原価率の上昇が、当初予想を上回ったことから、損失額は当初予想よりも増加し、営業損失は387百万円、経常損失は353百万円となる見込みであります。また、前述しました特別損益等の計上により、当期純損失は919百万円となる見込みであります。

<連結>

通期(平成21年3月1日～平成22年2月28日)

売上高は15,009百万円(前回予想比0.1%減少)、営業損失は194百万円(前回予想営業利益46百万円)、経常損失は219百万円(前回予想経常利益64百万円)、当期純損失は581百万円(前回予想当期純損失280百万円)となる見込みであります。

当社減益要因に加え、上海に大型複合レストランを展開する和伊授桌餐飲管理(上海)有限公司が出店周辺地区の都市開発が遅れたため、見込み客数が予想を下回り、予算が大幅未達となった影響から、営業損失は194百万円、経常損失は219百万円となる見込みであります。また、前述しました特別損益等の計上(但し、子会社株式評価損は連結上消去されるため影響ありません。)と利益計上会社の税負担の影響から、当期純損失は581百万円となる見込みであります。

(注) 業績予想につきましては、本資料の発表時現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる可能性があります。

以 上